

# データを使いこなそう

カシミール3Dは地図上に様々なデータを載せて表示させることができるのが特徴の1つになっています。『カシミール3D入門』では主なデータの作り方などを紹介しました。またGPSデータについては『カシミール3D GPS応用編』で詳しく解説しています。ここではGPS以外のデータについて、さらに詳細な説明をしていきましょう。

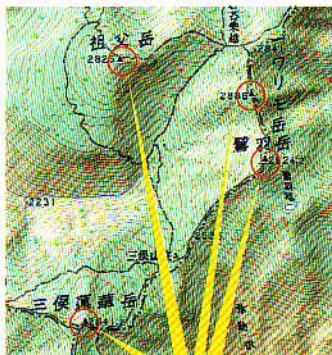
## 4.1 地名データを作る

### 4.1.1 地図上から作る

もっとも基本的なデータの1つが地名データです。地名データは地図に直接表記されているものとは別に用意されているデータで、検索やカシバードでの地名表示などに使われます。

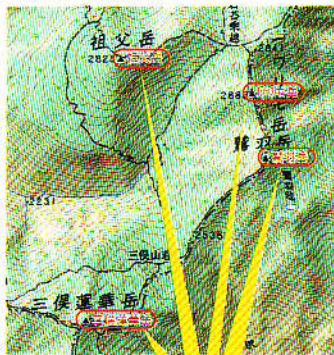
初期状態では地図上にアイコンの形で表示され、アイコンにマウスを近づけるとそのデータの情報がポップアップします。設定を変えれば地名の文字も様々な形で表示することができます。

図4-1-1 地図上の地名データ



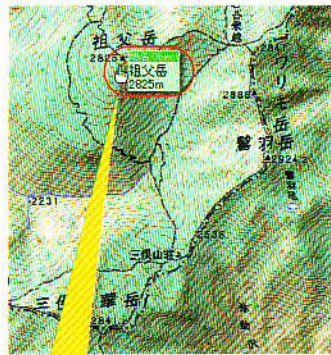
三角のアイコンが山名の  
地名データ

図4-1-2 地名を表示



設定を変えてアイコン横  
に地名を表示させた

図4-1-3 マウスを重ねる



マウスをアイコンに重ねると  
情報がポップアップする

地名データの表示設定を変えるには、画面の右側にあるダイアログバーの [各種情報表示パネル] を操作することで可能になります。



### ヒント

初期状態ではYAMADBW.NDBという地名ファイルが使用されています。

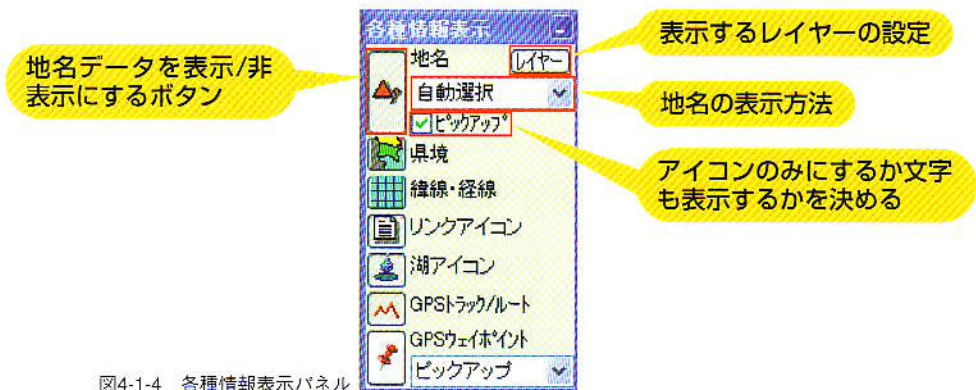


図4-1-4 各種情報表示パネル

このパネルのボタンを押し下げた状態になっていれば、地名データを地図上に表示します。表示したくない場合はボタンを戻します。また「ピックアップ表示」のチェックボックスのチェックをはずせば、図4-1-2のように地名の文字を表示します。どの種類の地名を表示するかなどの表示方法は、「レイヤー」ボタンをクリックするとさらに詳細に設定することができます。レイヤーについては4.3をご覧ください。

メニューの「表示」－「表示の設定」の「地名」のタブでも詳細な設定が可能です。



図4-1-5 表示の設定

地名データは拡張子がNDBのファイルに格納されますが、現在使用しているファイルは、「ファイル」メニューの「データ一覧」で表示することが可能です。ここで、現在開かれている地名データのファイル名とフォルダ名、地名データを変更したかなどを知ることができます。

現在開いている地名データファイルの情報

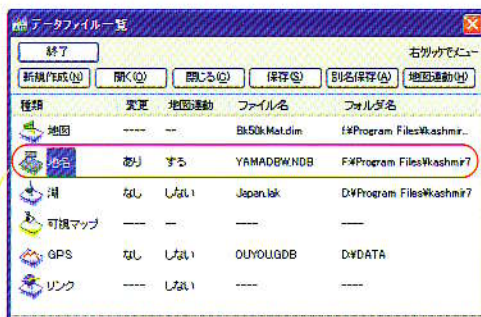


図4-1-6 データファイル一覧

地図上から地名を作成する方法をおさらいしてみましょう。

まず作成したい地点にマウスを移動させ右クリックしてメニューを開きます。[新規作成]メニューを選択して[地名作成]を選びます。

作成したいポイントで右クリック

このメニューを選ぶ

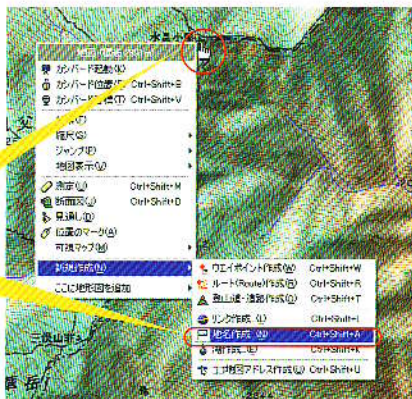
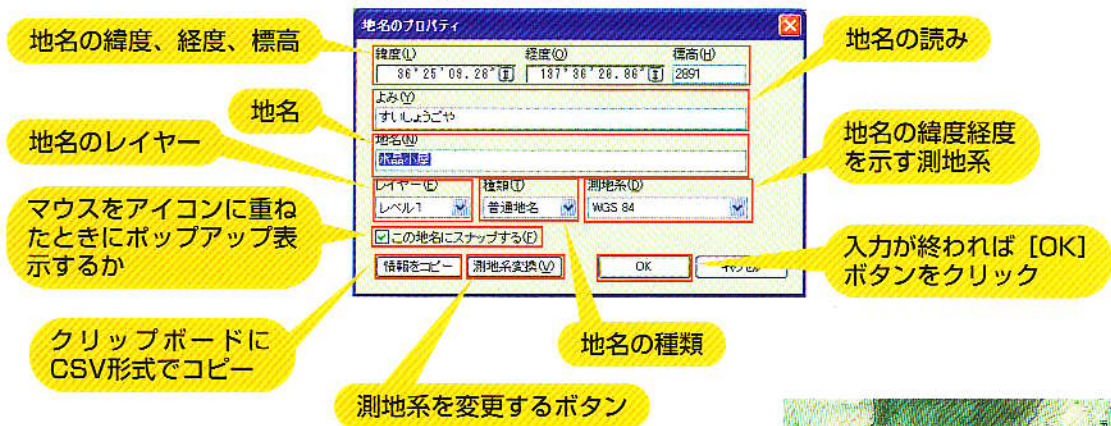


図4-1-7 地名の作成

すると地名のプロパティが表示されますので、必要な項目を入力しましょう。

たとえば、ここでは「水晶小屋」という地名を作るとします。このときに「地名の種類」はどれを選べばよいでしょうか？ 初期状態では「山小屋」というカテゴリがありませんが、悲観することはありません。地名の種類はいくらでも自分で作れます。これについては4.2を参照して下さい。

図4-1-8 地名のプロパティ



作成した地名



図4-1-9 地名が作られた



## 参考

地名については『カシミール3D入門』の8.3 (P116) も併せてご覧下さい。

## 4.1.2 変換して作成する

### エクセルを活用する

地名は地図上から1つ1つ作っていくほかに、地名ファイルを作成してそれを読み込ませる方法もあります。地名ファイルはテキストファイルですので、メモ帳などで簡単に中身を見たり書き換えることが可能です。また、エクセルなどの表計算ソフトを使用すると大量のデータを作成したり他の形式のデータから変換するとき便利です。

地名ファイルは拡張子が NDB のファイルです。このファイルメモ帳などで開いてみると図4-1-10のように1行に1つの地名データが並び、各データの項目はスペースまたはタブで区切られています。

メモ帳で地名ファイルを開いてみた

```

;KASHMIRNDB
MeshSize=-1
南硫黄島 24.14020 141.27482 916 ミナミイオウジマ A 11 11 1 WGS84
古見岳 24.21828 123.53287 468 コミダケ A 1 11 1 WGS84
於茂登岳 24.25377 124.11004 526 オモダケ A 1 11 1 WGS84
宇良部岳 24.27108 123.00196 231 ヲラベケ A 1 11 1 WGS84
押通山 24.45289 141.17142 161 オサトウヤマ A 1 11 1 WGS84
押通峰 25.25406 141.16511 792 オサトウヤマ A 1 11 1 WGS84
那覇 26.12451 127.40513 35 カナ A 21 80 1 WGS84
恩納岳 26.28460 127.52292 363 むながけ A 11 11 1 WGS84
八重岳 26.38080 127.55422 454 ややがけ A 11 11 1 WGS84
乳頭山 26.39382 142.08187 463 ちやがけ A 1 11 1 WGS84
与那覇岳 26.43010 128.13071 503 オナハダケ A 11 11 1 WGS84
中央山 27.04271 142.12437 818 ちゅうおうさん A 1 11 1 WGS84
大山 27.22088 128.33599 240 おおやま A 1 11 1 WGS84

```

図4-1-10 地名ファイルの中身

このファイル形式の仕様については次の表4-1-1をご覧ください。

表4-1-1 地名ファイル (NDB) の仕様

コメント	各行の先頭文字が ; である場合はコメントと見なして解釈しません。ただし、; のあとに !! が付いている行はレイヤーと地名の種類と定義部分となりますので削除しないでください。
MESH SIZE=-1	この行は『やまおたく』というソフトで地名データを使う場合に必要な行で、カシミール3Dだけで使用するのあれば必要ありません。
南硫黄島 (1列目)	地名を記載します。文字の形式や記載方法は自由ですが、スペースやタブは使用できません。スペースは半角の下線 _ で代用できます。
24.14020 (2列目)	緯度を示します。形式は dd.mmss (dd=度、mm=分、ss=秒) で小数第5位の最後の数字は1/10秒を表します。南緯はマイナス符号を付けます。
141.27482 (3列目)	経度を示します。形式は緯度と同じです。西経はマイナス符号を付けます。
916 (4列目)	標高値をメートル単位で記載します。
ミナミイオウジマ (5列目)	地名の読みです。半角カナである必要はなく、読み以外の用途に使用されてもかまいません。
A (6列目)	『やまおたく』というソフトで使うためのダミーデータです。カシミール3Dだけで使うときも必ずAを記載して下さい。
11 (7列目)	レイヤーIDです。初期状態で5種類のレイヤーが使用可能です。それぞれのIDは下記の通りです。 レイヤー1 1 レイヤー2 11 レイヤー3 21 レイヤー4 31 レイヤー5 41  これ以外の独自のレイヤーを使用する場合は、特殊なヘッダー (!!ではじまる行) が必要になりますので、いちどカシミール3Dでレイヤーを作成してから地名ファイルを保存して、ヘッダー部分をコピーして使ってください。

11 (8列目)	地名の種類IDです。初期状態で使用可能な種類のIDは下記の通りです。 11 山名 10 別名 (山名が複数ある場合は別名を列挙) 12 峠名 15 山脈名 20 湖沼名 31 河川名 32 谷沢名 40 外海・内海・海峡 50 岬・浜など 60 島嶼名 80 都市、街、地区の名前 81 市区町村名 82 都道府県名 これ以外の独自の地名の種類を追加したい場合は、レイヤーと同じように特殊なヘッダー (JLでじまる行) が必要になりますので、いちどカシミール3Dで地名の種類を追加してから地名ファイルを保存して、ヘッダー部分をコピーして使って下さい。
1 (9列目)	カシミール3Dでマウスを動かしたときに地名がピックアップするかどうかのフラグです。0が表示しない、1が表示します。
WGS84 (10列目)	緯度経度を表す測地系です。WGS84のほかにTokyoがあります。

この地名ファイルはスペースを区切りとしたデータとしてエクセルに読み込むことができます。

スペース区切りのデータとして読み込んだ

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	KASHMIR	DB								
2	MapSize	=1								
3	南嶺黄島	24.1402	141.2748	916	3750	インドネシア	A	1	1	1
4	吉見島	24.21325	123.5329	488	507	インドネシア	A	1	1	1
5	那達宜吉	24.25377	124.111	525	507	インドネシア	A	1	1	1
6	宇良報告	24.27108	123.002	231	507	インドネシア	A	1	1	1
7	福山	24.45289	141.1714	151	507	インドネシア	A	1	1	1
8	神々	25.25406	141.1651	792	507	インドネシア	A	1	1	1
9	那覇	26.12451	127.4051	35	507	インドネシア	A	21	80	1
10	恩納島	26.2846	127.5229	363	507	インドネシア	A	1	1	1
11	八重島	26.3808	127.5542	454	507	インドネシア	A	1	1	1
12	乳原山	26.39382	142.0919	463	507	インドネシア	A	1	1	1

図4-1-11 エクセルに取り込む

ここで編集したものをスペース区切りで再びNDBファイルに書き戻せば、カシミール3Dで読み込むことが可能です。

## GPSデータとのやりとり

地名データとGPSデータは相互に変換することができます。

GPSで取得してきたウェイポイントを地名データに変換すれば、細かいレイヤー管理などを行うことも可能です。

GPSデータから地名データへコピーするには、まずGPSデータエディタでコピーしたいデータを選択します。複数のデータを選択するには [CTRL] キーを押したままクリックするか、先頭と最後の項目を [SHIFT] キーを押しながらクリックします。そして、右クリックから [変換] - [地名へコピー] を選べばコピー完了です。なお、[地名へ変換] を選んだ場合は、元のGPSデータを削除します。

変換元のGPSデータはウェイポイントのほか、ルートやトラックも可能です。トラックの場合は、トラックポイントの1つ1つが地名になります。

